

僕の通るみち

小川未明

青空文庫

僕はまいにち、隣の信ちゃん、と、学校へいきます。僕は、時計屋の前を通って、大きな時計を見るのが好きです。その時計は、時刻が正確でした。

また、果物屋の前で、いろいろの果物を見るのも好きです。どれも美しい色をして、いいにおいがしそうです。

僕は、肉屋の前を通るのがきらいでした。だから、なるだけ、店の方を向かないようにして通りました。人間のため働いた牛や馬を食べるのは、かわいそうなことのように思えます。

もう一つ、こまることができました。魚屋の前に、いつも、赤い、強そうな犬がいることです。

この犬は、よく人にほえました。また、自転車に乗った人を追いかけてました。だから、いつ、自分にも、ほえつくかもしれないからです。

「犬なんか、こわくないよ。」と、信ちゃんはいました。

しかし、僕は、ひとりのときは、まわりみちをして、肉屋と魚屋の前を通らないようにしました。

ある日、信ちゃんは、僕に向かつて、

「もう明日からは、いっしょに学校へいかれないね。」といいました。

それは、信ちゃんの組が、午後からになったためです。

僕は、悲しくなりました。そうして、二人が魚屋の前になると、ちようど、赤犬と

よその子供が遊んでいました。

「君、その犬はどここの犬なの？」

勇敢な信ちゃんが、聞きました。

「さあ、どこの犬かな。いままで飼っていた人がいなくなつて、うちがないのだよ。くつ屋のおじさんが、かわいがつているから、くつ屋の犬だろう。」と、男の子が、答えました。

「名は、なんとというの？」

「赤といつているよ。」

「人に食いつかない？」

「かまわなければ、食いつきなどしないさ。」

「よくほえるだろう。」と、僕がいました。

「おかしなようすをした人に、ほえるよ。」と、そばにいた女の子が、答えました。
 信ちゃんしんは、犬いぬのそばへいって、頭あたまをなでてやりました。

「清ちゃんせいも、なでておやりよ。」と、信ちゃんしんが僕ぼくにいました。

僕ぼくはこわくて、どうしてもなでる気きになれませんでした。

「なでてやると、君きみになれるよ。」と、また、信ちゃんしんがいました。

僕ぼくがまごまごしているのを見て、よその男の子おとこが、笑わらっていました。すると、女の子おんなこが、

「いやなのを、むりにすると、食くいづくかもしれないよ。」といました。僕ぼくは、なでるのをやめました。

あくる日ひ、僕ぼくが、ひとりで学がっこう校から帰かえると、赤あかが尾おをふって、僕ぼくのそばへやってきました。僕ぼくはうれしかったので、

「赤あかや、赤あかや……。」といて、赤あかの頭あたまをなでてやりました。

このごろ、僕ぼくは、学がっこう校のいきかえりに、赤あかを見るのが、たのしみです。そうして、その姿すがたを見ないときは、さびしい気きがします。

僕ぼくは、女おんなの子このいった言葉を、いつまでも忘わすれません。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 13」講談社

1977（昭和52）年11月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第5刷発行

底本の親本：「僕の通るみち」南北書園

1947（昭和22）年2月

初出：「コクミン一年生」

1946（昭和21）年5、6月合併号

※表題は底本では、「僕《ぼく》の通《とお》るみち」となっています。

※初出時の表題は「ボクノトホルミチ」です。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2020年2月21日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

僕の通るみち

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>